














週間市場レポート (2023年2月20日~2月24日)

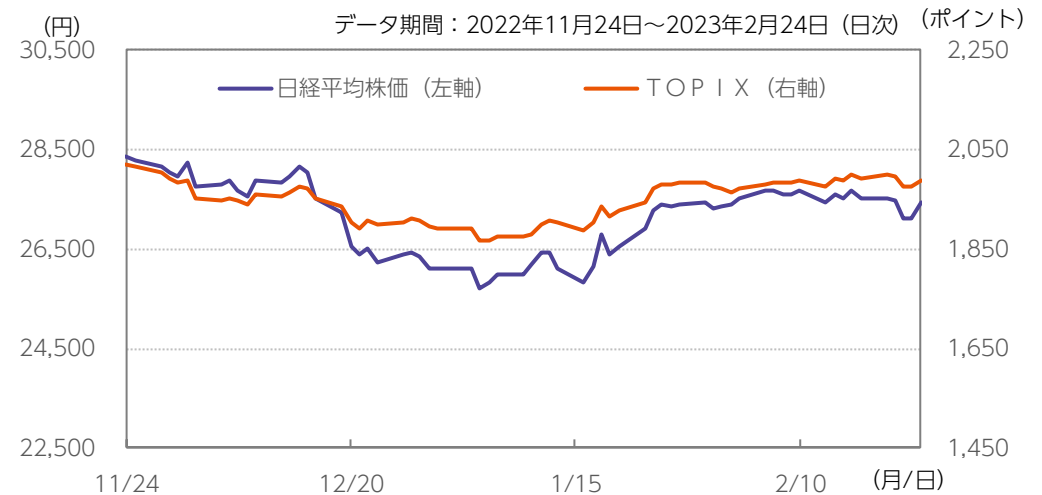
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2023/2/17	先週末 2023/2/24	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,513.13	27,453.48	▲ 0.22 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,991.93	1,988.40	▲ 0.18 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		33,826.69	32,816.92	▲ 2.99 ↓
S&P500種指数		4,079.09	3,970.04	▲ 2.67 ↓
ナスダック総合指数		11,787.27	11,394.94	▲ 3.33 ↓
ユーロ・ストックス50指数		4,274.92	4,178.82	▲ 2.25 ↓
S&P/ASX300指数		7,307.94	7,265.93	▲ 0.57 ↓
上海総合指数		3,224.02	3,267.16	1.34 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)*		835.90	815.30	▲ 2.47 ↓
東証REIT指数		1,825.42	1,851.48	1.43 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		763.35	734.92	▲ 3.72 ↓
ASX300 REIT 指数		1,455.10	1,454.30	▲ 0.05 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		183.10	178.29	▲ 2.63 ↓
日本10年国債 (%)		0.507	0.504	▲ 0.003 ↓
米国10年国債 (%)		3.815	3.943	0.128 ↑
ドイツ10年国債 (%)		2.440	2.537	0.097 ↑
英国10年国債 (%)		3.515	3.659	0.144 ↑
ドル/円		134.15	136.48	1.74 ↑
ユーロ/円		143.27	143.84	0.40 ↑
英ポンド/円		161.49	163.01	0.94 ↑
豪ドル/円		92.28	91.80	▲ 0.52 ↓
フィラデルフィア半導体指数		3,005.87	2,935.11	▲ 2.35 ↓
WTI原油先物 (ドル)		76.34	76.32	▲ 0.03 ↓
CRB指数		267.57	267.15	▲ 0.16 ↓

2) 日本の株式・債券市場

◀ 株式 ▶

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。主要企業の2022年10~12月期決算発表が一巡し、国内で目立った材料がないなか、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げが長期化するととの観測から米国株式市場が大幅下落した流れを受け下落しました。週末は、次期日銀総裁候補の植田和男氏が、衆議院議院運営委員会において、現在の金融緩和策について適切との認識を示したことから、日銀が当面、金融緩和路線を続けるとの見方が広がり上昇したものの、週間では前週末比で横ばいとなりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

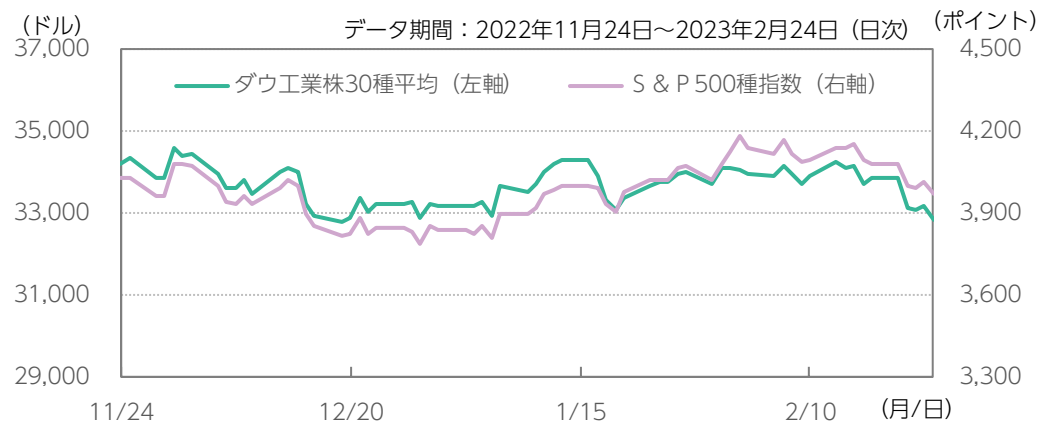
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。次期日銀総裁の候補である植田和男氏の所信聴取を控え様子見ムードのなか、日銀が大規模金融緩和策をいずれ修正するとの思惑から上昇しました。なお、日銀は5年物の共通担保資金供給オペや連続指値オペの実施により、長期金利の上昇を抑えており、週を通じて日銀が許容する長期金利の変動幅の上限である+0.5%近辺での推移となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

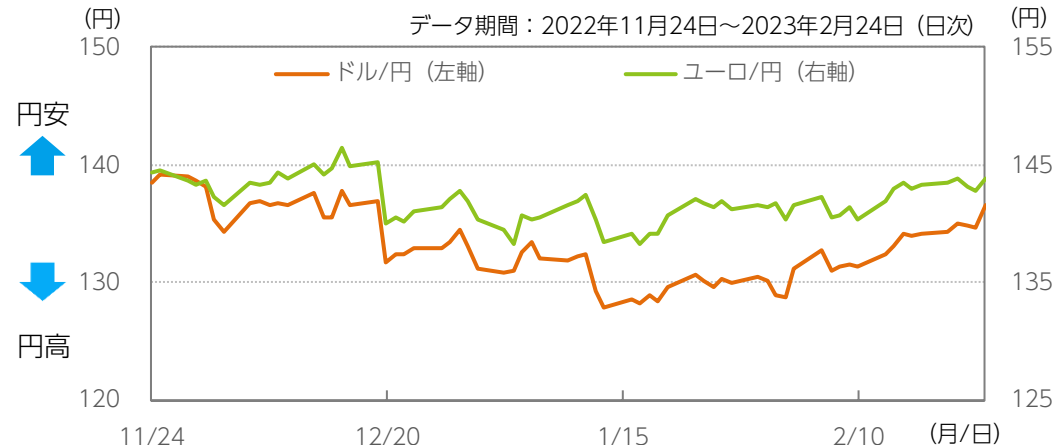
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。米小売大手の決算や業績見通しが市場予想を下回り、米景気や企業業績への先行き不透明感が広がったことなどから、週初は大幅下落しました。その後は、大幅下落の反動から自律反発狙いの買いが入り上昇したものの、1月の個人消費支出（PCE）物価指数が市場予想を上回り、FRBの利上げが長期化するとの懸念が強まり、週末は下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。2月の米購買担当者景気指数が8ヵ月ぶりに好不況の境目である50を上回るなど強い経済指標を受け、FRBによる利上げ継続が意識され、円売り米ドル買いが進みました。1月のFOMC議事要旨は想定ほどタカ派的ではなかったものの、1月のPCE物価指数が市場予想を上回ると、週末は円安米ドル高が進みました。



5) 今週の見通しについて

FRBによる利上げが長期化するとの見方が再び強まり、株式市場は金利の動向や経済指標に一喜一憂する展開が続いています。

22日にFRBが公表した2月の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨では、ほぼ全ての参加者が、政策金利の引き上げ幅を0.25%に縮小することが適切であると同意していることが明らかとなりました。一方、物価の先行きについては、上振れリスクがあるとの慎重な声が目立つなど、タカ派（金融引き締め推進派）的な意見も根強いことから、FRBは引き続き、経済データを確認しながら、慎重に利上げ幅を決定していくものと思われます。一方、国内では、次期日銀総裁の候補である植田和男氏は、24日（金）の所信聴取において、物価上昇率2%の物価目標の安定的な達成にはまだ時間を要するとし、現状の大規模金融緩和を支持する姿勢を示しました。

FRBによる利上げの長期化が意識されるなか、今週の株式市場は、ISM（米供給管理協会）製造業・非製造業景況感指数などの経済指標を睨みながら、一進一退の展開となりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>